

第77回 (R6. 5)

現代トイレ考

山口県柳井市の近郊、瀬戸内海を見下ろす小高い山の上に、般若寺という古刹があります。お参りを済ませて、境内のお手洗いを拝借した時のことです。便器の前に立つとこんな張り紙が。

「急ぐとも

外に散らすな

吉野山

桜の花も

散れば見苦し」

男性小便器の前の注意書きはいろいろありますが「**一歩前進!**」という命令調や「**綺麗に使っていただいて有難うございます**」という褒め殺し型が主流です。なかには「**苦しゅうない、近ごろ寄れ**」「**スピードよくコントロール**」などユーモア溢れるものや、この欄では紹介を憚られるものもあるようです。そんな中で私が出会った般若寺の張り紙は、吉野の桜を引き合いに出し品位を保った傑作と言えます。

ところで今年も満開の桜に

迎えられ、百名近い子ども達が川津小学校に入学しました。この子たちはほぼ全員が、洋式トイレで育ったと思われるのですが、受け入れる小学校のトイレは未だ和式が主流で、洋式は数えるほどしかありません。市は計画的に(金の無い時の行政の常套句)洋式に切り替えていくと言っていますが、我が川津小の順番はまだ先のようです。

日本のトイレの清潔さや、温水洗浄機能の付いた便器は、世界の羨望的的です。ただ、トイレ大国と言われている松江の教育現場のトイレ事情は決して誇れるものではないようです。いたいけな子ども達が、和式トイレに遭遇した時に起こるであろう悲喜劇は、やはり避けたいものですね。

あ!お食事中でしたか。
失礼しました。